



茶内小だより

茶小の教育目標 ○思いやりのある子 ○自ら鍛える子 ○進んで学ぶ子

地域とつながる「学校づくり」

～ コミュニティ・スクール導入に向けて ～

校長 佐野 万由里

朝晩の冷え込みが強まり、ストーブが欠かせない季節となりました。

12月1日(土)には地域参観日・餅つき会が予定されております。今年度は昨年の事を踏まえ、開催にあたり保健所に相談し、指導して頂きました。PTA役員会でも協議したところ、特に衛生管理面を徹底し実施する運びとなりました。また、この時期にインフルエンザなどの感染が広まった場合は、子どもたちの健康安全を第一に考え、学校医とも相談し、対応の判断をしていきたいと考えています。

さて、先日の11月15日(木)茶内地区「コミュニティ・スクール」制度説明会が浜中町教育委員会の主催で開催されました。お集まりいただきました保護者や地域のみなさまには、心よりお礼申し上げます。



浜中町教育委員会では、平成31年度から浜中町内全地区でコミュニティ・スクールの導入を計画しています。当日は、主催者である教育委員会船橋管理課長の挨拶に続き、教育員会渥美室長より、浜中町が目指す「コミュニティ・スクール」について、詳しい説明がありました。質疑応答の中では質問が出されるなど、地域の方々の意識の高さにとても感心致しました。

「コミュニティ・スクール」とは、必要な支援に関して協議する機関として「学校運営協議会」という組織を設置し、学校と地域のつながりを整備して、継続し、地域と協力し合って学校を作っていくとする取り組みです。つまり、学校運営協議会は学校の応援団であり、地域とのつながりを作るサポーターです。

本校の学校経営の方針の一つに、保護者や地域の活動参加を促し、その力も活かした学校づくりの推進があります。コミュニティ・スクール制度が導入されることで、校長や教職員の異動があっても、学校運営協議会によって、地域との組織的な協働体制がそのまま継続でき「持続可能」となります。学校と地域と保護者が協働し、子どもたちをどのように育てるか一緒に考え、教育活動をより充実させ、円滑に推進していきたいと考えています。また、学校が地域の行事や活動に積極的に参加することで地域の活性化にもつながると考えます。学校と地域の連携を深めるためには、子どもたちが地域へ出て行く活動と地域の方を学校に招く活動の両面が必要です。

特に地域には年齢や職業は違いますが、貴重な人生経験を積んでこられた方がたくさんおり、いわば「地域は人材の宝庫」でもあり、地域人材をどう学校教育に活かすかが、学校経営のマネジメントとの一つだと思えます。

学校・地域の思い描く姿として

- ◆地域の方が教育の当事者となることで、積極的に子どもの教育に携わることが出来ます
例えば・・・絵本の読み聞かせ、環境整備作業、長期休業中の学習サポートなど
- ◆保護者、地域住民と学校が「顔が見える関係」となり、互いの理解が深まり地域が学校の応援団になります。
例えば・・・登下校時の見守り、盆踊りの練習、地域学習の協力、地域の防災対応など
- ◆地域の方々がやりがいを持ち、教育活動へ参画することで学校が地域のよりどころとなるとともに、子どもたちの学びや体験が充実します。
例えば・・・高齢者とのふれあい、昔遊び体験や地域の自然体験、料理体験など

私たち教員だけではなく、保護者・地域の方とのネットワークを広げ、茶内地区の子どもたちのために何ができるのかを一緒に考え、推進していくために、コミュニティ・スクール制度の取り組みにご理解とご協力を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

※ コミュニティ・スクールは、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に携わることで、一緒に協働し子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める法律(地教行法第47条の6)に基づいた仕組みです。

11/6 PTAミニバレーボール大会

約30人がトレセンに集い、井関副会長、鈴木厚生補導部長、今井厚生補導部長の音頭で和やかな雰囲気の中、大会が始まりました。

ミニバレーのよさは、ラリーを続ける中で自然に生まれる声かけ、全力プレーに対する称賛、不安定なボールの動きを楽しむ面白さです。

この日は、全チームが3ゲームずつ行いました。どのチームもミニバレーの運動特性を味わいながら、楽しむ姿が見られました。

また、懇親会においても教職員と保護者が情報交流をすることができました。準備をしてくださった鈴木部長はじめ厚生補導部の皆様、大変ありがとうございました。



12月行事予定

日	曜	学校行事・PTA行事など
1	土	土曜授業日 PTAもちつき会 昔あそび会
2	日	週休日
3	月	安全点検 児童アンケート 冬休み学習希望調査
4	火	租税教室(6年) 歯科教室(1～3年)
5	水	みんなの広場(図書委員会) 歯科教室(4～6年)
6	木	たてわり班清掃 放課後学習
7	金	児童委員会 定時退勤日
8	土	週休日
9	日	週休日
10	月	
11	火	浜中町学力調査①(国語、社会)
12	水	浜中町学力調査②(算数、理科)
13	木	たてわり班清掃
14	金	クラブ 定時退勤日
15	土	週休日
16	日	週休日
17	月	
18	火	子どもまつり(1・2年生)※保育園児来校
19	水	
20	木	
21	金	2学期終業式 定時退勤日
22	土	冬期休業①
23	日	冬期休業②
24	月	冬期休業③
25	火	冬季休業④ 冬休み学習会
26	水	冬季休業⑤ 冬休み学習会
27	木	冬季休業⑥
28	金	冬季休業⑦
29	土	冬季休業⑧ 学校閉庁日(～1月3日)
30	日	冬季休業⑨
31	月	冬季休業⑩

【冬休み学習会】	
8:00～ 8:30	集合
8:30～ 9:20	国語
9:30～10:20	算数
10:30～11:20	学年裁量
11:25	下校
11:30	(バス発車)

12月の帰宅時刻は午後4時です!

11/6 単P研(Motto-かせて) 「できたてチーズピザ&アイス」

11名の会員が参加しました。ピザ班とアイス班に分かれて「Motto-かせて」の職員の皆さまにご指導をいただきました。地元の食材をたっぷりを使用して、美味しくできあがりました。あつあつのチーズピザの味は最高だったようです。また、地元の牛乳と生クリームを材料にしたアイスクリームも絶品でした。



11/7 みんなの広場 ～環境委員会の〇×クイズ～

本校は、浜中町より環境ISOの認定を受けています。児童一人一人が環境に目を向け、自分なりにできることを考え、行動することが大切です。児童会活動としてはペットボトルキャップを集める活動をしています。この日は、環境委員会の主催で〇×クイズ大会が開かれました。クイズを通して、集めたペットボトルの利用のされ方について考えることができました。



11/8 アートプロジェクト (2年生) ～世界の画家と一緒に～

シマフクロウ・エイドさんのご協力で、国内外のアーティスト4名が2年生の子どもたちと一枚の「大きな絵」を描き上げました。まず、アーティストと一緒に浜中町の、空・山・湿原・川・海を描きました。言葉が通じないのでなかなかうまく伝え合うことができません。次に、浜中町の生き物を描きました。ゲームで当てた生き物がどこに住んでいるかを考えました。はじめは、上手く描き出すことができませんでした。アーティストの皆さんが筆の使い方を見せてくださいました。言葉は通じなくても子どもたちは真似をしながら、想像力をはたらかせて描くことができました。「みんなで大きなものをつくる」ことを通して、「外国人と交流する」「環境について考える」ことができました。「大きな絵」は、しばらく湿原センターに展示されたのち、文化センターに展示の予定です。



11/15 コミュニティスクール (コミスク) 説明会

約30名の茶内地区の皆さまが説明会に参加してくださいました。いよいよ平成31年度から茶内小・中学校で「コミスク」が始まります。初年度は、「どのようなコミスクにするか」が中心となりそうです。学校、地域、家庭のそれぞれに任せてしまうのではなく、「こんな子どもに育てたい」という目標を共有して、みんなで子どもたちを育てましょう。



茶小の子どもたちの体力は、 全国平均を超えている

男子	握力			上体起こし			長座体前屈			反復横跳び			男子
	茶内小	全国	割合	茶内小	全国	割合	茶内小	全国	割合	茶内小	全国	割合	
6年	24.7	19.8	125.0	24	22.6	106.2	33.8	36.0	93.9	53.2	46.7	113.9	6年
5年	15.1	16.5	91.5	24.8	19.9	124.6	28.5	33.1	86.1	45.4	41.9	108.4	5年
4年	15.1	14.9	101.6	19.7	18.7	105.4	32.7	30.3	108.0	43.7	39.6	110.4	4年
3年	13.9	12.8	108.3	20.6	16.4	125.4	28.6	29.2	97.8	39.4	36.2	108.9	3年
2年	13.0	11.2	116.0	14.1	14.5	97.2	24.4	27.8	87.8	36.5	32.2	113.4	2年
1年	9.5	9.4	100.9	12	11.6	103.4	28.3	26.2	108.0	28.7	28.1	102.2	1年

女子	握力			上体起こし			長座体前屈			反復横跳び			女子
	茶内小	全国	割合	茶内小	全国	割合	茶内小	全国	割合	茶内小	全国	割合	
6年	20.9	19.7	106.0	21.8	20.5	106.1	39.1	40.1	97.6	46.5	43.8	106.2	6年
5年	13.3	16.1	82.6	16.0	18.8	85.1	35.8	37.4	95.6	44.0	40.0	110.0	5年
4年	15.3	14.0	109.2	16.7	17.8	93.9	34.9	34.1	102.2	38.3	37.9	101.0	4年
3年	14.6	12.0	122.0	16.9	15.9	106.3	30.5	32.4	94.3	37.5	35.0	107.3	3年
2年	11.0	10.4	105.7	15.4	13.8	111.9	31.0	30.8	100.6	34.3	31.1	110.4	2年
1年	10.2	8.8	115.4	17.6	11.2	156.9	28.9	28.2	102.3	27.6	27.5	100.3	1年

男子	シャトルラン			50m走			立ち幅跳び			ソフトボール投げ			男子
	茶内小	全国	割合	茶内小	全国	割合	茶内小	全国	割合	茶内小	全国	割合	
6年	80.2	65.5	122.4	8.83	8.7	98.5	174.0	166.5	104.5	35.2	27.2	129.4	6年
5年	55.6	52.2	106.5	9.75	9.3	95.4	148.2	151.7	97.7	21.6	22.5	96.0	5年
4年	56.9	48.0	118.5	10.00	9.6	96.0	138.7	145.2	95.5	20.1	20.3	99.2	4年
3年	46.4	38.5	120.6	10.54	10.0	94.9	134.9	136.2	99.0	14.9	15.8	94.0	3年
2年	36.2	28.6	126.6	10.44	10.6	101.5	125.2	126.3	99.1	14.2	12.2	116.4	2年
1年	20.3	19.2	105.7	11.33	11.5	101.5	110.0	114.3	96.2	10.1	8.6	117.9	1年

女子	シャトルラン			50m走			立ち幅跳び			ソフトボール投げ			女子
	茶内小	全国	割合	茶内小	全国	割合	茶内小	全国	割合	茶内小	全国	割合	
6年	49.5	50.4	98.2	9.39	9.1	96.9	151.1	156.4	96.6	19.5	16.4	118.9	6年
5年	35.0	41.6	84.1	9.43	9.6	101.9	149.8	145.9	102.6	14.5	13.9	104.3	5年
4年	30.3	38.4	78.9	10.47	9.8	93.6	124.3	138.8	89.5	12.4	12	103.6	4年
3年	39.5	29.2	135.4	10.46	10.3	98.4	133.5	127.5	104.7	11.5	9.8	116.9	3年
2年	31.7	22.7	139.5	10.66	10.9	102.3	125.6	117.8	106.6	9.1	7.5	121.5	2年
1年	18.7	16.3	114.8	11.74	11.7	99.7	111.7	107.4	104.0	8.1	5.8	140.4	1年

全国各地で行われている新体力テストは、体力の状況により一人一人に対してA～Eの評価をすることができます。今年度の茶内小の状況は、次の通りとなっています。
A・B層～53% C層～34%(全国平均程度) D・E層～13%(H28は27%)
 全国的に運動の二極化(運動をする子はするが、しない子はほとんどしない状況)が進みつつある中、全国各校において実態に応じた対策がされています。茶内小においては、D・E層に着目をして、教育課程の中で運動環境を整え、『運動への意欲付け』『体力向上』を重点に取り組んできました。
 「朝の体育館開放」「元気アップチャレンジ」「マラソントイム」「廊下に運動の場」「サッカーゴール設置」「バス待ち児童に体育館開放」「なわとびチャレンジ」「体力テストの記録化」「体育科の授業改善」等
 他校と比べても実態に応じた取組が数多くされている成果が結果となってあらわれています。しかし、まだまだ学校体育の充実(体育科だけではありません)に改善の余地があると考えています。登下校も体力向上に位置付けてみるのはいかがでしょうか。徒歩による登下校にするだけでも十分な運動量を確保できる子もいます。逆にスクールバス利用の児童は、休み時間やバス待ちの時間の遊びを積極的に行うことで運動量を確保できるようになります。そして、新しい遊び方やスポーツの楽しみ方については、体育の授業で学ぶとよいのです。
 体力向上については、生涯寿命と健康寿命、健康保険と医療費、地域総合型スポーツクラブ等との密接な関係にあります。また、国民の3人に1人は、運動不足の時代と言われています。なぜ体力向上が必要なのか。なぜ毎日運動する必要があるのか。そのために何ができるのかについて、学校-地域-家庭で具体的に考えていく時期にあります。